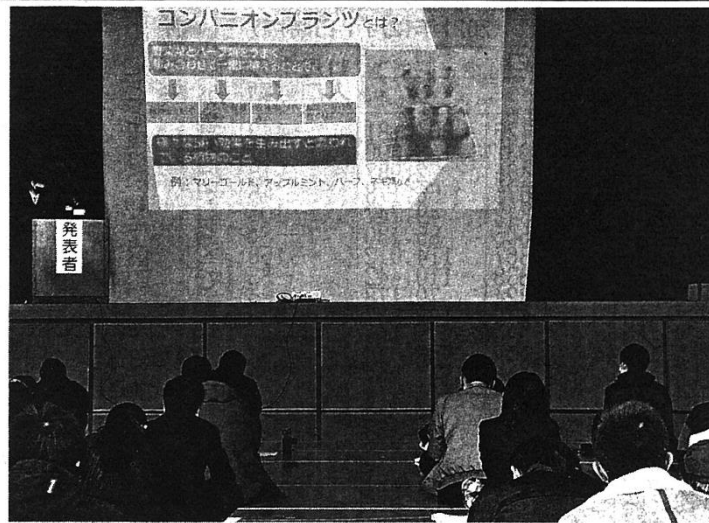


# 食品加工などの研究成果発表



## も報告商品化ケーキ高雲東篠

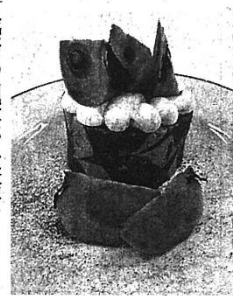


さん

篠山東雲高校で、「コンパニオンプラント」について説明する生徒18日、丹波篠山市福住

篠山東雲高校（丹波篠山市福住）で、地域農業科の課題研究発表会があった。3年生24人が、下級生へ農作物の栽培や食品加工などに取り組んだ1年間の研究成果を披露。創作ケーキ商品化の報告などもあった。

「課題研究」授業で、個人やペア18組に分かれ、自らテーマを決め、農作物の栽培や観察、実験をしてきた。テーマや手法はさまざま。一緒に育てることで、病害虫予防や成長促進の効果がある草花「コンパニオンプラント」を用いた野菜栽培▽ブルーギルやウシガエルなど、駆除した外来生物の堆肥化▽ウルフドッグ（狼犬）による獣害対策▽野菜栽培への竹チップ利用などを報告。収穫前に野菜が獣害に遭うなどの失敗例もあった。



放置柿を使った「かき茶ロール」

創作スイーツも人気テーマ。さんは、廃棄されがちな地酒の酒かすを活用したポロロやかなかんを考案し

た。さんは、ココロギの粉末を使った昆虫食スイーツを提案した。さんは、獣害対策につながる洋菓子作りに挑戦。サルなどが人里に近づく原因となる「放置柿」のジャムをクリームに混ぜたロールケーキを完成させた。丹波茶も使った「かき茶ロール」で、特産品を生かしたスイーツコンテスト（市商工会青年部主催）に応募。期間限定で販売された。

さんは、自らの挑戦の経緯を説明。スイーツを通して獣害を知ってもらうのが目的で「新聞などで情報発信することが効果的」としつつ、商品化や期間を設けない継続販売のハードルの高さについても語った。将来は市内で菓子店を開くのが夢だという。（堀井正純）